

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(42)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(42)—

1. 始めに

前報(41)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回からピアノ協奏曲です。

モーツアルト ピアノ協奏曲 15 番変ロ長調
ピアノ協奏曲 19 番へ長調
ピアノ協奏曲 20 番ニ短調
ピアノ協奏曲 23 番イ長調
ピアノ協奏曲 24 番ハ短調
ピアノ協奏曲 27 番変ロ長調

イングリット・ヘブラー (ピアノ)

アルチェオ・ガリエラ指揮ロンドン交響楽団

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

PHILIPS 盤ということで、RIAA、正相、第4時定数 High で聴いていきます。

先にヘブラーのピアノソナタを聴いていきましたが、今回は定番のピアノ協奏曲集です。

15 番と 19 番は演奏会でも聴く機会のないものですが、ヘブラーらしい優雅な佇まいのフレージングを聴かせてくれ、バックのガリエラ指揮ロンドン交響楽団もソフトな音調でヘブラーの音色とマッチしています。

20 番から 27 番まではお馴染みの曲で、抑揚、緩急の表情が豊かに変化するものですが、そういった変化をヘブラーが捉えています。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、15 番から 27 番までのピアノ協奏曲の変化する表情をヘブラーが巧みに聴かせてくれます。

以上